

島根・才ノ峠遺跡

1 所在地 島根県松江市竹矢町

2 調査期間 一九八〇年(昭五五)六月一〇月

3 発掘機関 島根県教育委員会

4 調査担当者 平野芳英・内田律雄・広江耕史

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代・近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、意宇平野北辺から出雲国分寺跡東側を通過して大橋川に抜ける谷の西側丘陵・斜面(以上Ⅲ区)、及び谷部の水田(Ⅰ・Ⅱ区)



(松江)

からなる。主な遺構として、Ⅲ区の丘陵頂部、及び斜面の加工段に掘立柱建物一六棟などが検出された。個々の遺構の年代は確定し難いが、遺跡全体の年代は七世紀後半から九世紀末までが中心であるとみられる。水田部からは曲物・容器・浮

子・琴柱・火鑽白などを含む木製品のほか、土玉・手捏土器・土馬・鏡形土製品・分銅形石製品・土鈴・ミニチュア土製支脚など祭祀用と思われる遺物、墨書土器一点が出土している。その他、出雲国分寺の創建期瓦と同範の瓦が少量出土しており、出雲国分寺との関係が指摘される。木簡はⅠ区の水田部から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「大」〔草郷カ〕 (57)×20×3 019

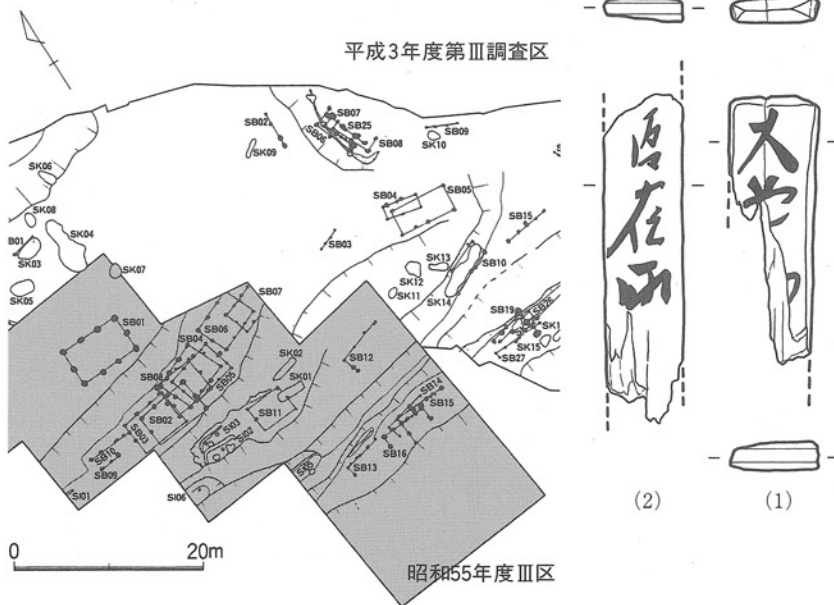
(2) 返在 〔処カ〕 (72)×17×3 081

ともに板目のアスナロ材で、裏面は保存状況が悪く、調整の有無は確認できない。報告書では両者を同一個体とするが、接合部はないため二点とした。(1)は上端を平面ケズリとし、右側縁辺のみ側面ケズリ。なお、遺跡周辺は『出雲国風土記』段階では大草郷、『和名抄』段階では筑陽郷に含まれると考えられる。

9 関係文献

島根県教育委員会『国道九号線バイパス建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』(一九八三年)

同『一般国道九号松江道路建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ(才ノ峠遺跡)』(一九九三年)



オノ峠遺跡遺構合成図
（島根県教育委員会1993年を一部改変）



青木遺跡は出雲平野の北辺、北山山系の南裾に位置し、北山から南へ流れていた湯屋谷川により形成された小扇状地の縁辺部に営まれた、弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。国道四三〇〇一年から発掘調査を実施しており、弥生時代及び古代の遺構・遺物について

島根・青木遺跡

- 1 所在地 島根県出雲市東林木町
- 2 調査期間 二〇〇三年度調査 二〇〇三年（平15）四月～二月
- 3 発掘機関 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 今岡一三・松尾充晶
- 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡ほか
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要